

(要約版)

喫煙と健康に関する医学的文献と社会的な関心との変遷に関する社会学的研究

助成研究者 苫米地 伸 (東京学芸大学教育学部・社会学)

1. 目的

現在の日本において、タバコ及び喫煙行動には徹底的に「悪」のラベルが貼られている。それが喫煙者であっても、非喫煙者であっても、ともにタバコ及び喫煙行動を「悪い」ことであると考え、その理由として「健康に悪い」「ガンの原因」などの答えが返ってくるのがしばしばである。

そこで私が問題にしたいのは、このような見解が、いつ頃から定着し始めたのか、またそれがどのような社会的背景のもとに発生してきたのか、ということである。様々なタバコ及び喫煙行動に対する規制が 1980 年代以後に施行されてきたが、それが実効力を持つためには、社会的な認知もまた必要なはずである。そのため、どのようにして、日本におけるタバコ及び喫煙行動が、現在ほど否定的になったのかという過程を、データを元にして明らかにするのが、本研究の目的である。

2. 方法

上記の研究目的を達成するために、タバコ及び喫煙行動に関連した、第二次世界大戦終了から 2007 年までの、医学的文献資料、一般的な雑誌記事数、および新聞の記事数がどのくらいの数に上るのかを調査した。

まず、日本における医学的な文献において、タバコ及び喫煙行動に関する研究がどれくらいの数に上るのかを探索するために、医学中央雑誌刊行会による『医学中央雑誌』における分類を利用し、データベースを作成し、その数の経年的変化を調べた。

また、そういった医学的な知識や社会的な関心の広まりを探るために、一般的な雑誌(大宅壮一文庫作成の記事検索サービスを利用)と、新聞(朝日新聞記事検索データベースを利用)における喫煙行動や喫煙と健康に関する記事が、どのように取り扱われてきたのかを調査した。

医学的な文献の数及び内容と、一般的な雑誌および新聞の記事数ならびに内容が、どのように移り変わってきたのか、さらにその相互関連を時間的推移とともに明らかにする。この際にとりわけ、いくつかのタバコ及び喫煙行動の規制に関する出来事との関連性に着目する。1972 年のパッケージ警告文掲載、1981 年の国鉄在来線特急の禁煙車設置、1990 年のパッケージ警告文の改正、1998 年の自主規制によるタバコ関連 CM の中止、2003 年の「健康増進法」制定などの出来事の際に、医学的な文献の数と内容、一般的な雑誌及び新聞の記事数と内容が、どれほど変化するのかを調査分

析することとする。

3. 結果

(1) 医学的な喫煙関連文献数の推移

医学的な喫煙関連文献の総数は、16156 件であった。戦後まもなくの頃から、喫煙あるいはタバコ関連の医学文献は存在していたが、戦後 30 年近く「煙草」あるいは「喫煙」への医学界における関心は、それほど高くはなかったと思われる。1982 年に 208 件となっており、この年が第一のピークといえる。第二のピークは 1988 年であり、この年の医学的文献数は、311 件であった。このピークの後、文献数は 1992 年には 216 件にまで一旦減少している。ただその後の伸びは、それまでの増減と比べると劇的な変化をみせている。特に、2003 年には、文字通り桁違いの 1219 件となっている。

(2) 一般的な雑誌における喫煙関連記事数の推移

一般的な雑誌における喫煙関連記事数の総数は、1712 件であった。医学的文献と同様、戦後まもなくから、煙草とガンの関連性について触れている記事が掲載されていた。概観するならば、四つのピーク（1957 年、1978 年と 1979 年、1987 年と 1988 年、2003 年）が見られ、そのピークにおける「禁煙嫌煙」のカテゴリーに含まれる記事数は、おおよそ半数を超えていた。

(3) 朝日新聞における喫煙関連記事数の推移

朝日新聞社から提供されている記事検索データベース『聞蔵』を利用し調べてみたところ、1985 年以後の朝日新聞における喫煙関連記事数の推移は、2003 年の記事数が突出していた。

4. 考察

医学的な文献数、および一般的な雑誌記事数の推移を、先に挙げた 5 つの日本におけるたばこ規制と合わせて考えると、1972 年のパッケージ警告文掲載以後、1997 年までは類似した増加傾向が見られるが、1998 年の自主規制によるタバコ関連 CM の中止以後は、医学文献数の増加だけが顕著であった。

このことから導かれるのは、第一に喫煙に関連した医学的な研究への研究費の増額が反映されているということである。第二に、その時期に関連することである。1972 年のパッケージ警告文掲載、1981 年の国鉄（当時）在来線特急の禁煙車設置、1990 年のパッケージ警告文の改正という三つの公的な規制は、喫煙者に対する「スティグマ化」としては寄与していなかったと思われる。その意味で日本において「喫煙は健康に悪い」というスティグマを喫煙者に貼り付け、喫煙者に限らず非喫煙者にもそのことが根付いたのは、1998 年以後、とりわけ 2003 年以後なのではないかと思われる。